

北米イノベーションエコシステム クラスターレポート (ヘルステック)

日本貿易振興機構（ジェトロ）
ニューヨーク事務所

2025年04月

【免責条項】
本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用下さい。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロおよび執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。
なお、本レポートに記載の内容はすべて 2025年3月時点での情報です。
また、本レポートは、OCO Globalの協力を得てとりまとめました。

禁無断転載 Copyright (C) 2025 JETRO. All rights reserved

内容

I.　本調査の概要および調査手法

II. セクターおよびクラスター概要

III.ボストン Boston (MA州、米国)

IV. ミネアポリス Minneapolis (MN州、米国) 周辺

V.　サンディエゴ San Diego (CA州、米国)

VI. ヒューストン Houston (TX州、米国)

VII.シカゴ Chicago (IL州、米国)

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

1 本調査の概要

北米のイノベーション・エコシステムにおいて、日本企業のコラボレーション可能な機会を把握し、その結果を、日本企業および政策担当者向けに幅広く提供することを目的とする。

- **セクターの定義および報告書の対象範囲：**ヘルステックセクターは、医療サービスの質・効率・アクセスの向上を目的として、テクノロジーを活用する分野である。AI、IoT、クラウドコンピューティング、ウェアラブル端末などのデジタル技術により、予防、診断、治療、健康管理の在り方を革新しつつある。本報告書は、北米のヘルステックセクターに焦点を当て、以下の主要なサブカテゴリーを対象とする。
  - **遠隔医療・リモートケア：** オンライン診療、遠隔モニタリング、バーチャルケアプラットフォームなど、地理的制約を超えた医療アクセスを実現するソリューション。
  - **デジタル診断・AI医療：** 医療画像解析、症状評価ツール、診断支援AIなどを活用した、迅速かつ精度の高い診断支援技術。
  - **パーソナライズド医療・予防医療：** 遺伝子解析、個別化治療プラットフォーム、ヘルススコアリング等、個々人に合わせた健康増進・疾病予防の実現を目指すサービス。
  - **医療業務の効率化・自動化：** 電子カルテ（EHR）、医療事務AI、病院向けSaaSなど、医療提供者の業務負担を軽減し、ケアの質向上を図るツール群。
  - **ウェアラブル・ヘルスデータ活用：** スマートウォッチ、フィットネストラッカー、バイタルセンサなどを通じた個人の健康データ収集とその活用による自己管理支援および医療連携の高度化。
- **本報告の内容：**ヘルステック市場の概要およびクラスター分析について結果を報告するもの。クラスター分析では、対象地域の概要、地域課題、トレンド、日本企業の参入機会、ステークホルダーリストを取りまとめる。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

2 調査手法およびクラスター特定

fDi Marketsの海外直接投資データ、PitchBookのベンチャーキャピタル動向、業界トレンドや地域分析に関するセクターレポートを活用。また、米国市場に関する深い知見と、報告書で取り上げた地域での実務経験を基に分析を実施した。

- ベンチャーキャピタル（VC）の動向および投資トレンドは、PitchBookを活用。PitchBookは、未上場企業および上場企業、投資家、取引、M&A、ファンド活動に関する詳細な情報を提供する包括的な金融データプロバイダーであり、データベースには世界で450万社および250万件の投資情報を含む。
- 直接投資動向のデータは、fDi Marketsを参照。fDi Marketsは、395,000件以上のプロジェクトと150,000社以上の企業に関するデータに加え、資本投資、雇用創出、企業プロフィールに関する情報を提供している。
- 幅広い業界動向を把握するため、業界レポート、学術誌、政府発行物、ニュース記事など、さまざまな二次情報源を活用した。
- ステークホルダーの特定および業界動向、ヘルステッククラスターに関する情報収集において、OCOネットワークの専門知識を活用。チームが有するヘルステック分野での経験と米国市場に関する知見が、データの背景付けや市場動向の把握に寄与した。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

3 調査手法およびクラスター特定

ヘルステッククラスターとして、ボストン、ミネアポリス、サンディエゴ、ヒューストン、シカゴの５地域を選定。これらの地域は、以下の3つの主要要素に基づいて選ばれた。

1. **研究施設の存在**：各都市には、ヘルステック分野の革新を支える医療系研究機関、大学、病院ネットワーク、スタートアップ支援機構が集積している。
   - **ボストン：** 世界的な医療・バイオクラスターであり、ハーバード大学、MIT、マサチューセッツ総合病院を中心に、医療AI、創薬、遠隔医療分野でのスタートアップと研究開発が活発である。
   - **ミネアポリス：** 医療機器分野での強みを持ち、Medtronicなど大手企業の本拠地。ウェアラブル端末、遠隔モニタリング、慢性疾患管理領域のヘルステック企業が多い。
   - **サンディエゴ：** バイオテック・ゲノム解析に強く、UC San Diegoと連携した個別化医療やデジタル治療の研究開発が進行。スタートアップ支援環境も整備されている。
   - **ヒューストン：** テキサス・メディカル・センターを中心に、病院主導の臨床試験やリアルワールドデータの活用が盛ん。医療AIや診断支援分野での導入が進んでいる。
   - **シカゴ：** 大規模病院ネットワークと保険会社が集積し、ヘルスデータ管理、保険連携型ウェルネステック（InsurHealth）分野でのスタートアップ活動が活発である。

2. **業界特化型ベンチャーキャピタル（VC）の集積**：ボストンとサンディエゴでは、創薬・医療機器・デジタルヘルスに特化したVCが活発に活動している。ミネアポリスでは医療機器と連携する投資が進み、ヒューストンでは病院主導のインキュベーターが資金提供を支援。シカゴでは保険・健康管理領域でのヘルステック投資が増加傾向にある。
3. **ヘルステック・エコシステムの存在**：各都市は有力スタートアップの集積地であり、研究開発から商業化、導入実証までを一貫して支援する体制が整っている。アカデミア・病院・行政・ITの連携により、実用的かつ持続的なイノベーションが促進されている。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

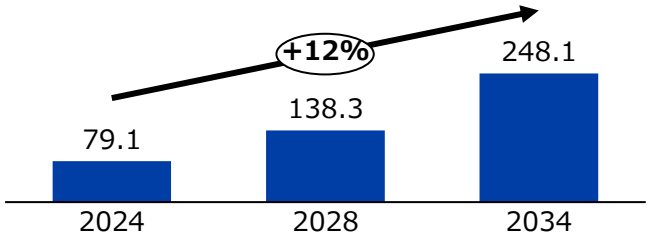
II.　セクター概要

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

1 セクター概要

ヘルステック分野における最新動向

- **AIの導入：** 医療機関では、業務効率の向上、事務作業の簡素化、臨床判断の支援を目的として、AI技術の導入が加速している。
- **ウェアラブルヘルスデバイス：** スマートウォッチやフィットネストラッカーなどのウェアラブル技術の活用が拡大しており、慢性疾患の継続的な健康モニタリングや予防的な管理を可能にしている。
- **遠隔医療の拡大：** テレメディスンは主流の医療提供手段となり、患者は遠隔での診察を受けられるようになったことで、対面診療の必要性が減少し、利便性とアクセス性が向上している。
- **プラットフォーム型医療エコシステムの構築：** 多様なサービスを統合するプラットフォーム型医療ソリューションへの投資が進んでおり、ケアの連携強化と患者エンゲージメントの向上を目的としている。
- **在宅医療の拡大：** 医療提供が施設中心から在宅中心へと移行する傾向が顕著となっており、2025年までに2,650億ドル相当の医療サービスが在宅へシフトするとの予測もある。



米国ヘルステック市場規模 (億米ドル)
出所：Precedence Research

ヘルステック分野の主要企業

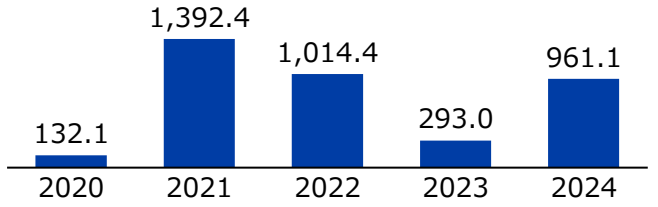
出所：Forbes, Deloitte, Time, Statista

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

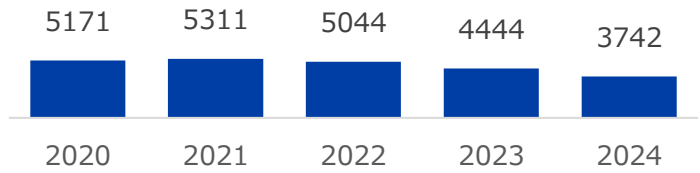
2 セクター概要

投資環境と資金調達動向

- ボストン、サンディエゴ、そして新興のヘルステック拠点は、ベンチャーキャピタル（VC）から数十億ドル規模の資金を集めている。
- 2022年および2023年の資金調達の落ち込みにもかかわらず、2024年後半にはCeriBellが成功裏に上場し、1億8,030万ドルを調達。その他の医療機器関連企業（例：Kestra Medical、Heartflow）もIPOを準備中との報道があり、市場回復の兆しが見られる。
- 米国国立衛生研究所（NIH）は、デジタルヘルス、診断技術、医療機器に重点を置いて、ヘルステック企業に助成金を提供している。
- 大手も新技術開発を目的に、ヘルステック・スタートアップへの投資や彼らとの提携を進めている。
- 景気後退や高金利環境により、資金調達はより慎重かつ選別的になっており、データ駆動型のイノベーションに資金が集中している



米国ヘルステック分野への外国直接投資(億米ドル)
出所：fDi Markets



北米ヘルステック分野へのVC投資(億米ドル)
出所：Pitchbook

高成長サブセクター

•遠隔医療（Telemedicine）：米国市場の収益は、2024年の50億ドルから2028年には60億ドルに達する見込み。
•ウェアラブルヘルスデバイス：2024年から2028年の間に年平均成長率（CAGR）11.2%で成長。
•ヘルスデータ分析：AIおよび機械学習（ML）アルゴリズムが成長を牽引。
•デジタル治療（DTx）：年平均成長率20.9%、2024年の19億ドルから2033年には130億ドルに成長する見込み 。

出所：fDi Markets, Forbes, Deloitte, Time, Statista

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

3 クラスター概要

以下のクラスターは、北米ヘルステック産業の多様で活発な状況を示しており、医療、健康管理、医療技術の発展に重要な役割を果たしている。

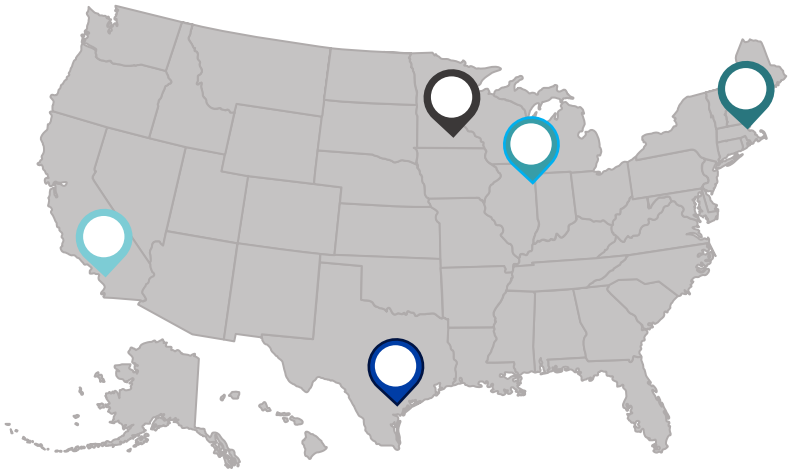
ボストン（マサチューセッツ州）
ハーバード大学やMITなどの世界有数の研究機関が集積し、有力なヘルステック・スタートアップや強力なベンチャーキャピタルの存在が特徴。

ミネアポリス（ミネソタ州）周辺
メドトロニックやボストン・サイエンティフィックの本拠地として知られる医療機器のグローバル拠点。

サンディエゴ（カリフォルニア州）
バイオテクノロジーとヘルステックの融合、ゲノム研究、そして強固な医療機器エコシステムを持つ都市。

ヒューストン（テキサス州）
世界最大の医療コンプレックスであるテキサス・メディカルセンターを擁し、ヘルステック分野でのイノベーションが進展。

シカゴ（イリノイ州）
大規模な医療産業基盤を有し、保険テックやデジタルヘルスソリューションにも強みを持つ都市。



Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

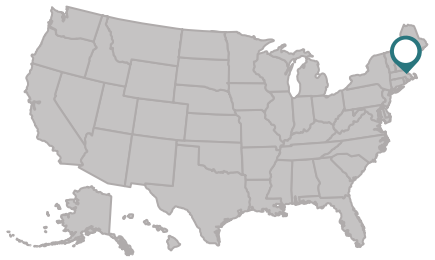
III.　ボストン Boston（MA州、米国）

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

1 ボストン概要

基本情報

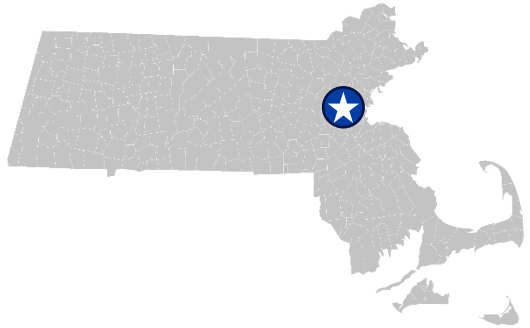
- **都市の人口:** 825万8,000人
- **州:** 米国ニューヨーク州
- **ヘルステック関連従業員数:** ４万人 (2024年)
- **ヘルステック企業数:** 1,500 (2024年)



米国におけるボストンの位置

クラスター概要

- 研究開発分野の労働人口は2023年に+3.7%増加している（全米平均は減少傾向）。
- 2021年～2024年の期間に、医療機器（MedTech）分野で3億ドル以上の海外直接投資（FDI）を誘致している。
- ハーバード大学、MITなどのトップ機関がイノベーションを牽引している。
- 米国国立衛生研究所（NIH）からの資金のうち9%を獲得（1人当たりの資金額では全米トップ)。
- **業界平均年収：**15万8,000ドル



マサチューセッツ州におけるボストンの位置

出所：World Population Review, BLS, One to one, MeHI, Glassdoor, City of Boston, Statista

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

2 ボストンの特長、課題および最新動向

特長

- ボストンには1,000社以上のバイオテックおよびヘルステック企業が集積し、「地球上で最も革新的な1平方マイル」とも呼ばれるケンドール・スクエアに高密度で立地している。主要企業にはBiogen、Moderna、Vertex Pharmaceuticalsなどがある。同地域のヘルステック・エコシステムは、トップ大学群への近接性と、医薬品、診断、デジタルヘルス分野に特化した高度人材により支えられている。
- ハーバード大学、MIT（マサチューセッツ工科大学）、マサチューセッツ総合病院（MGH）などの機関が、ゲノム医療、精密医療、AI活用ヘルスケアの分野で世界水準の研究開発を推進。ボストンは米国国立衛生研究所（NIH）助成金の受給額が常に上位で、2023年には32億ドルを獲得し、革新的医療研究の中核拠点となっている。
- また、ボストンはヘルステック分野のVC投資額で全米1位を誇り、2023年には単年で32.6億ドル以上を調達。Third Rock Ventures、RA Capital、Flagship PioneeringなどのVCの存在により、先端医療技術の商業化が加速している。
- 州政府主導の「マサチューセッツ・ライフサイエンス・イニシアティブ」（2008年開始、総額10億ドル）は、100社以上のアーリーステージのヘルステック企業に資金、税制優遇、助成金を実施し、業界の長期成長を後押し。この取り組みは、日本とボストンの企業間での戦略的パートナーシップなど、海外投資も呼び込んでいる。
- さらにボストンは、電子カルテ（EHR）、AI診断、遠隔医療で最前線を走っており、AthenahealthやIBM Watson Healthが、病院や民間医療機関向けにスケーラブルなソリューションを開発。多くのスタートアップは医療手技のAI自動化に取り組んでおり、国際的な投資先としても注目されている。

出所：World Population Review, BLS, One to one, MeHI, Glassdoor, City of Boston, Statista

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

3 ボストンの特長、課題および最新動向

課題

- **運営コストの高さ：**ボストンの活況なエコシステムは、高額な不動産と人材コストを伴う。特にケンドール・スクエアのラボスペースは1平方フィートあたり100～150ドルと、世界でも最も高価なバイオテック集積地のひとつとなっている。
- **デジタルヘルスとAIの規制課題：**AI活用型の医療ソリューションが普及する中、アメリカ食品医薬品局（FDA）の厳格な規制や、進化する医療保険の携行性と責任に関する法律（HIPAA）準拠のデータ保護法に対応する必要があり、新技術の商用化が遅れるリスクもある。多くの企業が、迅速なコンプライアンス対応を図るために法務・規制専門人材への投資を進めている。
- **専門分野における人材不足：**ヘルステックの急成長が人材供給を上回っており、AIエンジニア、バイオインフォマティクス専門家、規制対応の専門職などで激しい人材獲得競争が生じている。

最新動向

- **AIと精密医療が成長を牽引：**PathAIやTempusといった企業が、創薬や個別化治療計画にAIを活用しており、ボストンは精密医療のリーダー都市としての地位を確立している。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

4 日本企業の市場参入機会

- **精密医療とゲノム医療における提携:**ボストンは、ゲノム解析、個別化医療、バイオマーカーを活用した創薬の分野で世界をリードしている。ハーバード医科大学、MIT、ブロード研究所などが、CRISPR遺伝子編集、がんゲノム、AI創薬において革新を牽引している。日本が強みを持つがん精密医療、分子診断、次世代シーケンシング技術との連携により、ボストンのバイオ企業との共同研究、ライセンス契約、バイオマーカーを活用した治療法の共同開発が期待される。

- **AI創薬とデジタルヘルスへの投資:**PathAI、Tempus、Biofourmisなど、ボストンのスタートアップはAIを活用した創薬やデジタル治療で先端を走っており、機械学習による疾患予測や患者モニタリング技術を開発している。日本のAI診断、クラウド医療プラットフォーム、予測分析技術を持つ企業は、臨床判断支援、遠隔患者モニタリング、病院自動化などの分野で協業が可能である。

- **バイオ製造・細胞治療の生産拠点拡大：**ボストンは、Lonza、Moderna、武田薬品などが大規模なバイオ医薬品、ワクチン、細胞治療の製造拠点を構える全米有数のバイオ製造クラスターである。日本が強みを持つ再生医療、幹細胞研究、生物製剤製造技術は、ボストンのCDMO（開発製造受託機関）やバイオ企業との連携によって、細胞・遺伝子治療製品の米国市場展開とスケールアップに貢献できる。

- **AI画像診断・手術ロボティクスの共同開発：**マサチューセッツ総合病院（MGH）やブリガム・アンド・ウィメンズ病院を中心に、AI画像診断、ロボット支援手術、低侵襲処置などの研究が進められている。日本が強みを持つ高精度イメージング、内視鏡ロボティクス、AI放射線診断といった技術を活かし、早期診断、遠隔診療、精密手術に向けた次世代ソリューションの共同開発が可能である。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

5 日本企業の市場参入機会

■ **事例：武田薬品のR&Dハブ設立**

武田薬品は、武田薬品工業は、2018年に米国本社をイリノイ州ディアフィールドからマサチューセッツ州ボストンへ移転。アイルランドの製薬会社シャイアーの買収と合わせ、ボストン地域に研究開発拠点を集約した。また、2022年にはケンブリッジのケンドール・スクエアに新たなキャンパス「One Cambridge Campus」の建設計画を発表し、2026年の入居を予定している。 このキャンパスは、持続可能性とイノベーションを重視した環境で、研究開発活動のさらなる強化を目指している。これらの取り組みにより、武田薬品はボストン地域をグローバルな研究開発の中核拠点と位置づけ、創薬、がん研究、細胞治療などの分野でのイノベーションを推進している。

出所：Boston Herald, Takeda Pharmaceuticals, Takeda Pharmaceuticals

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

6 ベンチャーキャピタル

業務形態	詳細	専門分野	日本企業との連携状況	ウェブサイト
MassChallenge HealthTech	MassChallenge HealthTech は、デジタルヘルスのイノベーターと医療現場の連携を促進し、迅速で質の高いヘルスケアのイノベーションを推進することを目的としている。プログラムでは、スタートアップ向けの選抜プログラム、メンタリング、ネットワーキングイベント、パネルディスカッション、ピッチコンテスト、コワーキングの機会を提供している。	デジタルヘルスイノベーション、臨床コミュニティとの連携	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://mehi.masstech.org/mass-digital-health-programs/masschallenge-healthtech
Techstars Boston Accelerator	Techstars Boston Accelerator は、10年以上の運営実績を持ち、ボストンの豊富な専門知識とネットワークを活用してスタートアップの成長を加速している。注力分野は、ヘルステック、サステナビリティ／気候テック、プロップテック／建築環境、働き方の未来、AI／機械学習など。起業家には、トップレベルのメンター、投資家、専門家へのアクセスを提供している。	ヘルステック、サステナビリティ、不動産テック、AI/機械学習	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://www.techstars.com/accelerators/boston
LabCentral	LabCentral は、バイオテックスタートアップ向けの許可済みラボおよびオフィススペースのネットワークであり、ケンブリッジとハーバード大学キャンパスにわたって22万5000平方フィート以上を運営している。最大125社、約1000人の科学者および起業家が利用可能。LabCentral Igniteという取り組みを通じて、STEM教育、労働力トレーニング、次世代起業家の育成にも力を入れている。	バイオテック系スタートアップ、ラボスペース、STEM分野の発展	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://labcentral.org/
Harvard Innovation Labs (i-Lab)	Harvard Innovation Labs（i-Lab） は、ハーバードの学生、教員、起業家、ボストン地域のコミュニティメンバーによるチーム活動と起業を促進するための拠点として2011年に設立された。これまでに4000以上のチームや初期企業を支援し、総額70億ドル以上の資金調達を実現している。	起業家精神、さまざまな分野におけるイノベーション	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://innovationlabs.harvard.edu/

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

7 アクセラレータ・インキュベーター

業務形態	詳細	専門分野	日本企業との連携状況	ウェブサイト
Techstars Boston Accelerator	ボストンで10年以上活動するTechstars Boston Acceleratorは、地域の専門知識とネットワークを活用し、ヘルステック、サステナビリティ／気候変動、プロップテック（不動産テック）／建築環境、未来の働き方、AI／機械学習といった分野の革新的スタートアップの成長を加速させている。創業者には、ボストンのトップレベルのメンター、投資家、専門家への幅広いアクセスが提供されている。	ヘルステック、サステナビリティ、不動産テック、AI・機械学習	日本企業との明確な関係は確認されてない	https://www.techstars.com/blog/techstars-boston-accelerator
Harvard Innovation Labs	Harvard Innovation Labsは、ハーバード大学の学生、教職員、起業家、そしてボストン地域の住民によるチーム活動や起業を支援するために設立された施設。2011年の設立以来、4,000以上のチームや初期段階のスタートアップを支援し、これまでに累計で70億ドル以上の資金調達を実現している。	起業活動、各分野におけるイノベーション	日本企業との明確な関係は確認されてない	https://innovationlabs.harvard.edu/
LabCentral	LabCentralは、バイオテクノロジー系スタートアップ向けの認可済みラボおよびオフィススペースを提供するネットワーク。ケンブリッジとハーバード大学キャンパス内に合計22.5万平方フィート以上の施設を持ち、最大125のスタートアップ（約1,000人の研究者・起業家）に対応している。LabCentralは、より持続可能で包括的なバイオテクノロジー・エコシステムの構築を目指し、STEM教育、労働力育成、次世代起業支援に取り組む「LabCentral Ignite」プログラムも展開している。	バイオテック系スタートアップ、ラボスペース、STEM人材育成	日本企業との明確な関係は確認されてない	https://www.labcentral.org/

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

8 公的機関・研究機関

業務形態	詳細	専門分野	日本企業との連携状況	ウェブサイト
Massachusetts Institute of Technology（MIT）	マサチューセッツ工科大学（MIT） は、ケンブリッジにある世界的に著名な研究大学であり、ヘルステクノロジー分野でも革新的な研究開発を展開している。所属する「医療工学・科学研究所（IMES）」では、工学と生物医学を融合させて人間の健康向上を目指している。	工学、生物医学、ヘルステクノロジー	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://www.mit.edu/
Harvard University	ハーバード大学 は、ケンブリッジに所在するアイビーリーグの一角を成す大学であり、公衆衛生大学院（Harvard T.H. Chan School of Public Health）や生体模倣工学研究所（Wyss Institute）を通じて、ヘルステクノロジー分野で多大な貢献を行っている。	公衆衛生、生体医工学、ヘルステクノロジー	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://www.harvard.edu/
Massachusetts General Hospital（MGH）	マサチューセッツ総合病院（MGH） は、ハーバード・メディカル・スクールの附属病院であり、さまざまな医学分野における先進的な研究を行っている。新たな医療技術の開発と統合においても中心的な役割を担っている。	医学研究、ヘルステクノロジー	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://www.massgeneral.org/

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

IV.　ミネアポリス Minneapolis（MN州、米国）周辺エリア

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

1 ミネアポリス概要

基本情報

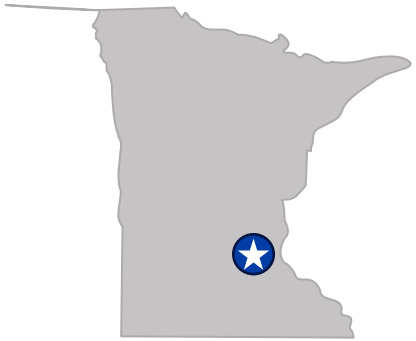
- **都市の人口:** 42万5,000人
- **州:** 米国ミネソタ州
- **ヘルステック関連従業員数:** 3万人 (2024年)
- **ヘルステック企業数:** 375社 (2024年)



米国におけるミネアポリスの位置

クラスター概要

- 2021年から2024年にかけて、ミネソタ州は全米（州間）および海外から2億7500万ドル以上の投資を誘致している。
- 2023年には、米国国立衛生研究所（NIH）から7億1800万ドルの資金を獲得している。
- 州内のメドテック系スタートアップは、2019年以降に62.8億ドルのベンチャーキャピタルを調達してきた。
- Medtronic、Medical Alley Association、Mayo Clinicといった機関が、産業の成長をけん引している。
- **業界平均年収：**11万3,000ドル



ミネソタ州におけるミネアポリスの位置

出所：World Population Review, Builtin, Minnesota Reformer, Glassdoor, U.S. Economic Development Administration, Government of Minnesota, Statista

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

2 ミネアポリスの特長、課題および最新動向

特長

- ミネアポリスは医療機器分野における世界的な拠点であり、Medtronic、Boston Scientific、Abbott Laboratoriesなどの大手企業が本社を構える。これらの企業は心血管インプラント、神経刺激装置、ウェアラブル型の健康モニタリング機器に強みを持つ。地域には、生体医工学、精密製造、規制対応に熟練した人材が集まっており、日本のメドテック企業にとっては共同開発や提携先を見つけやすい環境といえる。
- Mayo Clinicとミネソタ大学（UMN）は、再生医療、AI診断、ロボット支援手術などの分野で医療技術をリードしている。UMNのEarl E. Bakken Medical Devices Centerでは、生体医工学や低侵襲医療機器に関する先端研究が進んでおり、AI画像診断、スマートインプラント、手術ロボットの分野で日本企業との連携が見込まれる。
- Coravie MedicalやPreventice Solutionsといった企業が心電モニタリングやウェアラブル診断機器を開発しており、ミネアポリスにはコネクテッド・ヘルスケアの強固なエコシステムが存在する。遠隔医療や患者管理ソリューションの導入も進んでおり、IoT医療機器やAI分析に強みを持つ日本企業にとって、デジタルヘルス分野での協業の機会が多い。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

3 ミネアポリスの特長、課題および最新動向

課題

- **規制・承認の課題:**米国FDAの医療機器承認には平均3～7年を要し、日本企業にとっては規制対応や臨床試験が負担となる。ミネアポリスのFDA対応に実績ある企業との提携が承認取得を円滑にする手段となる。
- **資金調達の壁と可能性:**ミネアポリスではアーリーステージのVCが少なく、AI医療やロボティクス分野のスタートアップは資金調達に苦戦している。一方、Medtronicなどの企業系VCが有望企業に出資しており、日本企業の共同投資の機会となっている。

最新動向

- **AI・ロボティクスの成長:**手術支援、AI診断、予測分析などのAI医療が急成長しており、病院・研究機関での導入も進む。日本企業は、AI診断やスマート機器で現地と連携しやすい環境が整っている。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

4 日本企業の市場参入機会

- **医療機器・埋め込み型技術の展開:**ミネアポリスは「メドテックのシリコンバレー」と呼ばれ、Medtronic、Boston Scientific、Abbottなどが心血管デバイス、神経刺激装置、埋め込み型医療機器で世界をリードしている。日本の小型電子機器、高精度エンジニアリング、埋め込み型機器の強みを生かし、ペースメーカー、持続型血糖モニター、神経刺激インプラントなどの共同開発が可能である。次世代の生分解性インプラント、AI搭載ウェアラブル、スマートバイオセンサーなども連携の機会となる。
- **手術ロボットと低侵襲手技への投資:**MedtronicやMayo Clinicは、AI搭載の手術支援ロボットや低侵襲技術の開発を進めている。日本のロボット手術、内視鏡画像、AI診断の技術は、次世代の手術ロボットや可視化支援ツール、遠隔手術ソリューションの共同開発につながる。米国ではAIによる自動化の導入が進んでおり、2030年までに30%増加すると予測されている。
- **遠隔モニタリング・デジタルヘルスでの連携:**ミネアポリスは、Coravie MedicalやPreventice Solutionsなどが心電図デバイスやAIによる心臓モニタリングを牽引する「コネクテッド・ヘルス」の拠点である。日本企業が持つIoT対応医療機器やAI分析、遠隔医療プラットフォームの技術は、慢性疾患管理向けのスマートモニタリングソリューションの共同開発に適しており、米日両市場での需要に合致している

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

5 日本企業の市場参入機会

- **バイオ製造・再生医療の機会:**ミネアポリスは、ミネソタ大学のバイオエンジニアリングセンターを中心に、組織工学や細胞治療の製造拠点として台頭している。日本の再生医療、幹細胞治療、バイオマテリアル技術は、組織再生、3Dバイオプリンティング、生物製剤の分野での連携が期待される。日系バイオ製薬企業にとって、米国市場向けの治療法のスケールアップを実現できる研究基盤が整っている。
- **現地有力機関との連携:**ミネアポリスから車で約１時間半の距離にあるロチェスターを本拠するメイヨー・クリニックの存在など、同地域のメドテック・エコシステムとの連携機会も豊富である。

出所：JETRO

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

6 ベンチャーキャピタル

業務形態	詳細	専門分野	日本企業との連携状況	ウェブサイト
Vensana Capital	医療技術における革新的イノベーションでヘルスケアを変革しようとする起業家とのパートナーシップに特化したベンチャーキャピタルおよび成長株投資会社である。	医療技術、ヘルスケアイノベーション	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://www.vensanacap.com/
NeueHealth	ミネアポリス拠点の保険会社Bright Healthのベンチャーキャピタル部門。医療の簡素化と低価格化に資する革新的なヘルスケアソリューションに投資している。	ヘルスケアサービス、健康保険、デジタルヘルス	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://www.neuehealth.com/
Lemhi Ventures	ヘルスケアサービス産業に特化したアーリーステージ投資を行うベンチャーキャピタル会社。ミネアポリスを拠点とし、医療提供の変革と患者アウトカムの向上を目指す企業に注力している。	ヘルスケアサービス、ヘルステクノロジー、患者ケアのイノベーション	日本企業との明確な関係は確認されていない	http://www.lemhiventures.com/
SightLine Partners	医療機器およびヘルスケアサービスへの投資を中心とする、ミネアポリス拠点のベンチャーキャピタル・プライベートエクイティ会社である。	医療機器、ヘルスケアサービス、ヘルステクノロジー	日本企業との明確な関係は確認されていない	http://www.sightlinepartners.com/

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

7 アクセラレータ・インキュベーター

業務形態	詳細	専門分野	日本企業との連携状況	ウェブサイト
Medical Alley Starts	Medical Alley Associationによるヘルステックおよびメドテック スタートアップ向けの支援プログラム。メンタリング、資金調達ネットワーク、 業界との連携を提供し、規制対応、市場戦略、投資家紹介を通じて企業の成長を 支援している。	医療機器、AI 診断、 デジタルヘルス、 メドテックの 商業化	MedtronicやBoston Scientificが 日本のメドテック企業と 提携しているが、直接的な日本との 関係は確認されていない。	https://www.medicalalley.org
Mayo Clinic Business Accelerator	ヘルステックおよびメドテックスタートアップに対して、 ワークスペース、メンタリング、資金調達支援、研究連携の機会を提供。 バイオメディカル研究の商業化や医療機器のイノベーションを支援している。	バイオ医薬品の研究 開発、再生医療、AI 医療 診断、精密医療	Mayo Clinicは武田薬品工業や エーザイなどの日本の製薬企業と 臨床研究・治験で連携している。 日本との直接的なつながりはないが、 アジアを含むグローバルな メドテック投資家と連携実績がある。	https://www.mayo.edu/research/centers-programs/center-for-regenerative-medicine
BETA.MN	メドテックおよびデジタルヘルス分野のメンター、投資家、 商業化の専門家へのアクセスを提供するスタートアップ アクセラレーター。市場投入準備やベンチャーキャピタルによる 資金調達を支援している。	医療 ソフトウェア、AI 診断技術、 モバイルヘルスケア アプリケーション	日本企業との明確な関係は 確認されていない	https://www.beta.mn

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

8 公的機関・研究機関

業務形態	詳細	専門分野	日本企業との連携状況	ウェブサイト
Mayo Clinic	世界的に有名な医療研究機関。再生医療、AI診断、精密がん治療、ロボット支援手術などに強みを持ち、先進的なヘルステック企業と連携して医療技術・治療法の開発を推進。	再生医療、AI診断支援、ロボット手術、精密がん治療	武田薬品工業やエーザイなどの日本の製薬企業と臨床試験やがん研究で連携している。	https://www.mayo.edu/research
University of Minnesota - Earl E. Bakken Medical Devices Center	次世代医療機器（インプラント型センサー、ウェアラブル健康モニタリングシステム、AI駆動メドテックなど）の開発に注力するトップクラスの研究施設。スタートアップに試作や商業化支援を提供。	埋め込み型医療機器、ウェアラブル健康モニタリング、AIイノベーション	日本との直接的な関係はないが、埋め込み型メドテックやAI診断分野での提携の可能性がある。	https://med.umn.edu/mdc
University of Minnesota - Institute for Engineering in Medicine	生体医工学、AIを活用したヘルスケア分析、次世代イメージング技術を統合する学際的研究機関。病院やメドテック企業と連携し、AI診断支援やスマート手術ツールを開発。	生体医工学、AIヘルスケア分析、医療画像技術	日本との直接的な関係はないが、AIヘルスケア分析の研究は日本のメドテック分野と親和性が高い。	https://cse.umn.edu/iim
Medical Discovery Team on Addiction - University of Minnesota	AI創薬、脳画像、デジタル治療を活用した神経科学と依存症医療の進展に特化した研究センター。製薬・バイオ企業と連携し、個別化医療の実現を目指す。	神経科学、依存症医療、AI創薬、デジタル治療	日本との明確な関係はないが、AI創薬の研究は日本企業との連携機会を生む可能性がある。	https://med.umn.edu/research/addiction
Minnesota Supercomputing Institute (MSI)	スーパーコンピューティングを活用し、AI分析、機械学習、バイオインフォマティクスをヘルステック分野に提供。ゲノミクス、個別化医療、AIヘルス分析の研究を支援。	AIバイオインフォマティクス、個別化医療、医療分野での機械学習	日本との直接的な関係はないが、AIバイオインフォマティクスの研究は日本のゲノミクス・精密医療企業にとって有用。	https://www.msi.umn.edu
HealthPartners Institute	公衆衛生、遠隔医療、デジタル治療に特化した非営利研究機関。AIを活用した遠隔患者モニタリングやウェアラブル診断技術の開発でメドテック企業と連携。	遠隔医療、集団健康管理、デジタルヘルス分析、リモート患者モニタリング	日本とのつながりは確認されていないが、遠隔医療やデジタルヘルスの技術は日本の高齢化社会への対応に関連性が高い。	https://www.healthpartners.com/institute
Hennepin Healthcare Research Institute (HHRI)	外傷医療、感染症、医療情報学に特化するバイオメディカル研究機関。精密医療、AI診断、医療機器イノベーションに関する臨床試験を実施。	臨床試験、精密医療、AI支援型ヘルスケアソリューション、医療情報学	日本企業との直接的な関係はないが、臨床試験の知見は、日本企業が米国医療市場に参入する際に有益となりうる。	https://www.hhrinstitute.org

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

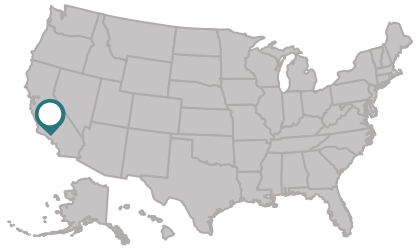
V.　サンディエゴ San Diego（CA州、米国）

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

1 サンディエゴ概要

基本情報

- **都市の人口:** 138万8,000人
- **州:** カリフォルニア州
- **ヘルステック関連従業員数:** 77,500人 (2024年)
- **ヘルステック企業数:** 1,500社以上 (2024年)



米国におけるサンディエゴの位置

クラスター概要

- 2021年から2024年の期間に、州内外および海外から7,800万ドル以上の投資を誘致した。
- 2024年上半期（第1・第2四半期）には、68億ドルのベンチャーキャピタル投資を記録し、前年（2023年）と比べて投資総額が20%増加した。
- 主な機関には、Illumina、ResMed、Dexcom、Varian Medicalが含まれており、同地域のヘルステック分野をけん引している。
- **業界平均年収：**13万3000ドル



カリフォルニア州におけるサンディエゴの位置

出所：World Population Review, San Diego Biotech Networks

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

2 サンディエゴの特長および課題

特長

- サンディエゴのバイオテックおよびヘルステック分野は、カリフォルニア大学サンディエゴ校（UCSD）、スクリプス研究所、サンフォード・バーナム・プレビス医療発見研究所など、世界有数の研究機関に近接していることから恩恵を受けている。これらの機関は再生医療、AIを活用した創薬、合成生物学の分野で研究開発を牽引しており、日本のバイオ・製薬企業にとって新規治療法、AIヘルスケア、精密医療への投資・連携の機会が広がっている。

- 同地域のヘルステック・エコシステムでは、AI、ビッグデータ解析、クラウド型医療ソリューションの導入が加速している。Genece Health、Human Longevity Inc.、CureMetrixなどの企業は、がん、放射線診断、希少疾患の検出において、AIによる診断補助や予測分析、個別化治療モデルの開発を進めている。また、ResMedやTandem Diabetes Careといった企業は、慢性疾患管理向けの次世代AI医療機器を開発しており、同地域はデジタル治療
分野でもリーダー的存在である。

- UCSDに設置されたサンディエゴ・スーパーコンピュータセンター（SDSC）は、生物医学研究に向けた高度なAI・機械学習機能を提供しており、AI創薬やリアルタイム患者モニタリングの導入を目指す日本企業にとって有望な連携先となっている。2023年には、米国国立衛生研究所（NIH）から、サンディエゴ拠点のAI系バイオ・ヘルステックプロジェクトに対し、6億ドル超の資金が提供されており、同地域がデジタルヘルス変革の中心地であることが明らかになっている。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

3 サンディエゴの特長および課題

課題

- **アーリーステージ投資の不足：**サンディエゴは強固なバイオテック・エコシステムを有しているが、ボストンやサンフランシスコに比べてアーリーステージのベンチャーキャピタル投資が少ない。後期段階のバイオ企業には多額の資金が集まる一方で、スタートアップはシリーズAやBの調達に苦戦している。サンディエゴにおけるヘルステック企業のシード投資平均額は300万ドルであり、ボストン（500万ドル）、サンフランシスコ（620万ドル）を下回っている。

- **AI・デジタルヘルス分野における規制上の制約：**AI診断技術や遠隔医療の普及に伴い、サンディエゴのヘルステック企業はFDAやHIPAAによる厳格なデータ規制に直面している。AI医療画像解析、予測分析、患者モニタリングシステムを開発する企業は、AIによる医療判断に関する新たな規制への適合が求められている。キャノンメディカルや富士フイルムヘルスケアなど、日本のAI医療画像技術に強みを持つ企業は、国内での規制対応経験を活かし、現地の規制コンサルタントと連携することで、FDA認可の迅速化と円滑な市場参入を図ることができる。

- **インフラ・ラボスペースの不足：**サンディエゴではバイオ関連のラボスペース不足が深刻化しており、需要が供給を上回っている。ラボスペースの平均価格は2021年以降20%上昇し、現在は1平方フィートあたり75ドルを超えている。これは、日本企業が現地にR&D拠点を設ける上での障壁となっている。一方で、サンディエゴ中心部のRaDD（Research and Development District）は2024年に完成され、170万平方フィート以上の新たなラボ・オフィススペースを提供している。これにより、日本のバイオ企業が現地拠点を設ける新たな機会が創出される見込みである。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

4 日本企業の市場参入機会

- **再生医療・バイオ医薬品分野での連携：**サンディエゴは幹細胞研究、遺伝子治療、再生医療の分野で世界的な拠点であり、UCサンディエゴ幹細胞プログラムやサンフォード・バーナム・プレビス医療発見研究所が革新を牽引している。日本はiPS細胞技術や組織工学で優位性を持ち、次世代細胞治療における共同研究、臨床試験、商業化パートナーシップの機会がある。また、サンディエゴ州政府が推進する30億ドル規模の再生医療関連投資を活用し、グローバル展開を強化できる。

- **AI医療画像診断と予測診断への投資：**サンディエゴでは、AIを活用したがん検出、放射線診断、精密医療のスタートアップが多く、AI医療分野が活発である。日本の高解像度イメージングとAI解析技術を組み合わせることで、自動診断、早期疾病発見、AI遠隔診療の分野で連携の余地がある。日本企業はサンディエゴ企業と共同でAI画像診断技術を開発し、米国の病院ネットワークへの導入を目指せる。

- **バイオ製造・細胞治療の生産拡大：**サンディエゴではバイオ医薬品と細胞治療の製造体制が急速に拡大しており、BioMed Realty、サーモフィッシャー・サイエンティフィック、RaDD（リサーチ・アンド・ディベロップメント・ディストリクト）などの拠点が整備されている。日本のバイオ企業は現地のCDMO（受託開発製造機関）と提携し、バイオ医薬品のスケールアップ、抗体医薬品の製造、細胞治療の事業化を進めることが可能である。メキシコとの国境インフラを活かして、コスト効率の高い製造拠点の構築も視野に入れることができ得る。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

5 日本企業の市場参入機会

- **手術・ウェアラブル分野におけるAI・ロボティクス連携：**サンディエゴのヘルステック業界では、ロボット支援手術、健康モニタリング用ウェアラブル、AI統合デジタル治療の分野での技術革新が進んでいる。日本の低侵襲内視鏡ツールや手術支援ロボット、スマートインプラントに関する技術は、サンディエゴ企業との連携に適しており、米国の遠隔医療・病院自動化市場への進出を後押しする。
- **参考事例：**DexcomおよびTandem Diabetes CareはAI型血糖モニタリングおよびウェアラブル機器で先行しており、NuVasiveとInvuityは低侵襲手術用ロボット技術に特化している。Scripps HealthおよびUCサンディエゴ・ヘルスは複雑な外科手術にロボット支援技術を導入しており、日本企業との技術協力の余地がある。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

6 ベンチャーキャピタル

業務形態	詳細	専門分野	日本企業との連携状況	ウェブサイト
Qualcomm Ventures	Qualcomm Incorporatedの投資部門で、2000年に設立された。自動車、データセンター・エンタープライズ、デジタルヘルス、IoT、モバイルなどの分野のスタートアップに投資している。	自動車、データセンター、エンタープライズ、デジタルヘルス、IoT、モバイル	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://www.qualcommventures.com/
Versant Ventures	サンディエゴに拠点を持つベンチャーキャピタルで、ヘルスケアおよびバイオテクノロジー分野への投資に特化している。	ヘルスケア、バイオテクノロジー	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://www.versantventures.com/
OurCrowd	サンディエゴにオフィスを持つグローバルなベンチャーキャピタルで、デジタルヘルススタートアップを含むさまざまな分野に投資している。	デジタルヘルスを含む多様な分野	2020年11月、日本の金融サービス企業であるオリックスがOurCrowdに6000万ドルの戦略的投資を行った。	https://www.ourcrowd.com/

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

7 アクセラレータ・インキュベーター

業務形態	詳細	専門分野	日本企業との連携状況	ウェブサイト
Connect	1985年設立の非営利団体Connectは、教育プログラム、メンタリング、ネットワーキングイベント、資金調達の機会を通じてサンディエゴのイノベーターや起業家を支援している。	さまざまな分野におけるイノベーションと起業支援	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://connect.org/
EvoNexus	南カリフォルニアのテクノロジーインキュベーターEvoNexusは、メンタリング、資金調達ネットワーク、オフィススペースの提供を通じて、ヘルステックを含むスタートアップの成長を支援している。	ヘルステックを含むテクノロジースタートアップ	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://evonexus.org/

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

8 公的機関・研究機関

業務形態	詳細	専門分野	日本企業との連携状況	ウェブサイト
California Institute for Telecommunications and Information Technology (Calit2)	UCサンディエゴとUCアーバインにまたがる学際的な研究機関で、新興技術を活用し、健康、エネルギー、文化、環境の改善に取り組んでいる。	通信、情報技術、医療、エネルギー、文化、環境	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://calit2.org/
UC San Diego Health	カリフォルニア大学サンディエゴ校のアカデミックヘルスシステムで、医療提供、医学研究、医療教育を行っている。	患者ケア、医学研究、医療教育	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://health.ucsd.edu/
Sanford Burnham Prebys Medical Discovery Institute	人間の生物学と病気の理解を深め、健康改善に向けた新たな発見を推進することを目的とする、サンディエゴの非営利医療研究機関。	医療研究、生物学	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://sbpdiscovery.org/

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

VI.　ヒューストン Houston（TX州、米国）

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

1 ヒューストン概要

基本情報

- **都市の人口:** ~231万4,000人
- **州:** テキサス州
- **ヘルステック関連従業員数:** 15万人 (2024年)
- **ヘルステック企業数:** 500社以上 (2024年)



米国におけるヒューストンの位置

クラスター概要

- 2022年、テキサス州は企業による研究開発（R&D）支出で全米第5位となり、全米合計6,080億ドルのうち4.3%を占めた。
- 2023年～2024年にかけて、ベンチャーキャピタル（VC）による資金調達額は2億ドルに達した。
- 主な研究機関には、テキサス・メディカル・センターおよびUTヘルス（テキサス大学保健機構）がある。
- **業界平均年収：**9万2,700ドル



テキサス州におけるヒューストンの位置

出所：World Population Review, Houston Innovation Map, Salary.com, Tracxn

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

2 ヒューストンの特長、課題および最新動向

特長

- 世界最大規模の医療クラスターであるテキサス・メディカル・センター（TMC）には、病院、研究機関、医学校を含む60以上の機関が集積しており、米国における臨床試験の実施件数でも最大を誇る。新薬開発、がん研究、医療機器の実証拠点としての機能に加え、TMCイノベーション・インスティテュートやTMCヘリックス・パークが、技術検証・規制承認を目指すヘルステック企業の集積と国際連携を促進している。
- がん治療と研究分野では、MDアンダーソンがんセンターを中心に免疫療法、放射性医薬品、AIを活用した診断技術の開発が進んでいる。がん治療薬やモノクローナル抗体、精密放射線技術において強みを持つ日本企業にとって、次世代治療法の共同研究や臨床試験を通じた連携の機会が広がっている。
- 遺伝子治療、ワクチン製造、再生医療といったバイオ医薬品製造分野でも、成長が著しい。ベイラー医科大学内の細胞・遺伝子治療センター（CCGT）では、CAR-T細胞療法や幹細胞研究が進められており、日本の再生医療・細胞治療の技術との相互補完によるR&D提携や米国向け製造体制の確立が期待される。
- また、AI診断、ロボティクス手術、デジタルヘルスの分野でも活発な研究開発が展開されている。ベイラー医科大学、ヒューストン・メソジスト研究所、ライス大学のAIヘルスラボなどが、AIを活用した診断支援や病院業務の自動化に取り組んでおり、画像診断や手術支援技術に強みを持つ日本企業との共同開発の余地が大きい。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

3 ヒューストンの特長、課題および最新動向

課題

- **細胞・遺伝子治療における規制上の障壁：**再生医療の主要拠点である同地域では、iPSC、遺伝子編集、バイオ医薬品などの分野において複雑なFDA承認プロセスが商業化の遅れを招くことがある。日本企業が米国市場に参入するには、厳格な規制要件をクリアする必要があるが、細胞・遺伝子治療センター（CCGT）やMDアンダーソンがんセンターとの共同試験や規制対応の連携を通じて、承認の迅速化が図れる可能性がある。
- **AIおよびデジタルヘルス人材の不足：**医療研究やバイオ医薬品製造において高い競争力を持つ一方で、AI技術者、データサイエンティスト、デジタルヘルスエンジニアといった専門人材の供給が課題となっている。AI診断、予測分析、デジタルセラピューティクスに取り組む日本企業にとって、現地大学と連携したAI人材育成プログラムの立ち上げが、地域展開に向けた有効なアプローチとなる。

最新動向

- **AI搭載型遠隔医療ソリューションへの需要拡大：**テレメディスンの普及、在宅医療の進展、AIによる遠隔モニタリングの需要増に伴い、ウェアラブル機器やデジタルヘルスプラットフォームに対する関心が高まっている。スマート診断、遠隔患者モニタリング、AI遠隔診療に強みを持つ日本企業にとって、拡大するヒューストンのデジタルヘルスネットワークへの参入機会が広がっている。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

4 日本企業の市場参入機会

- **がん研究・腫瘍学における展開：**テキサス・メディカル・センター（TMC）およびMDアンダーソンがんセンターは、腫瘍学研究、個別化医療、免疫療法の分野で世界的に知られている。日本の強みである標的型がん治療、モノクローナル抗体、放射性医薬品との相互補完性が高く、共同臨床試験、創薬連携、技術ライセンス契約に発展する余地が大きい。TMCのアクセラレータープログラムを活用することで、日本のバイオ医薬企業は米国市場でのプレゼンスを高めることができる。

- **バイオ製造と細胞治療生産への投資：**ヒューストンのバイオ製造エコシステムは急速に拡大しており、細胞治療、遺伝子治療、ワクチン製造への投資が活発である。TMC Helix Parkの開発により、500万平方フィートのライフサイエンス用ラボおよび製造施設が追加される予定で、日本の再生医療、バイオ医薬品、先進治療技術に携わる企業にとって魅力的な拠点となっている。ボストンやサンディエゴと比べて事業コストが低く、製造拠点の拡大に適した立地である。

- **AIヘルステックおよび医療ロボティクスにおける連携：**ヒューストンはAI診断、ロボット支援手術、デジタルヘルスの分野で先進的な取り組みを行っており、ベイラー医科大学やヒューストン・メソジスト研究所が主導している。日本の医療画像処理、リアルタイム分析、手術ロボットの技術と連携することで、病院オートメーション、予測医療分析、低侵襲手術技術の共同開発が可能となる。日本企業は現地病院や研究機関と協働することで、次世代AI医療技術の共創を実現できる。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

5 日本企業の市場参入機会

- **臨床試験と規制承認プロセスの加速：**ヒューストンはがん、神経疾患、希少疾患を中心に1,500件以上の臨床試験が行われており、米国臨床試験の重要拠点となっている。日本のバイオ医薬企業は、現地のCRO（開発業務受託機関）や学術研究センターと連携することで、FDA承認までのプロセスを効率化できる。TMCイノベーション・インスティテュートは、海外企業に対し資金調達、メンタリング、臨床検証支援の体制を整備している。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

6 ベンチャーキャピタル

業務形態	詳細	専門分野	日本企業との連携状況	ウェブサイト
Softeq Venture Studio	2022年に設立されたSofteq Venture Studioは、ウェルネス、メドテック、スポーツテック分野のテクノロジースタートアップを対象とする4000万ドル規模のベンチャーファンド。Softeq Venture Studioへの資金提供に加え、シードおよびシリーズAラウンドへのフォローオン投資も行っている。	テクノロジースタートアップ、ウェルネス、医療技術、スポーツテクノロジー	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://www.softeq.com/
ZT Corporate	ZT Corporateは、ヘルスケア、自動車などの多様な分野に投資するプライベートエクイティ会社。ヒューストン地域で最大級のベンチャーキャピタルおよびPEファームの一つとされている。	ヘルスケア、自動車、分散型投資	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://www.ztcorporate.com/

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

7 アクセラレータ・インキュベーター

業務形態	詳細	専門分野	日本企業との連携状況	ウェブサイト
TMC Innovation	TMC Innovationは、テキサス・メディカルセンターによるイニシアチブで、スタートアップ、業界リーダー、投資家の連携を通じて、ヘルスおよびライフサイエンス分野の技術開発を加速することを目的としている。TMCxなどのプログラムでは、ヘルステックスタートアップにメンタリング、リソース、ワークスペースを提供している。	ヘルステクノロジー、医療機器、デジタルヘルス	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://www.tmc.edu/innovation/
JLABS @ TMC	JLABS @ TMCは、Johnson & Johnsonが展開するグローバル・イノベーションセンター・ネットワークの一部で、34,000平方フィートのライフサイエンス向けインキュベーター。スタートアップにラボスペース、機材、専門家ネットワークへのアクセスを提供し、医療技術の加速を支援している。	バイオテクノロジー、医薬品、医療機器	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://jnjinnovation.com/locations/jlabs/jlabs-tmc
Enventure	Enventureは、ヒューストンを拠点に活動する組織で、ライフサイエンス分野のアーリーステージ起業家を対象に、メンタリング、ワークショップ、ネットワーキングの機会を提供している。アイデアを実用的なヘルステックソリューションへと発展させる支援を行っている。	ライフサイエンス、医療イノベーション、起業家支援	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://www.enventure.org/

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

8 公的機関・研究機関

業務形態	詳細	専門分野	日本企業との連携状況	ウェブサイト
University of Texas Health Science Center at Houston (UTHealth Houston)	UTHealth Houstonは、McGovern医科大学、バイオメディカル情報学部、公衆衛生学部を含む6つの学部で構成される総合的なアカデミックヘルスセンター。教育、研究、臨床ケアを通じて、ヘルスサイエンス分野に貢献している。	医学、バイオメディカル情報学、公衆衛生、歯学、看護学	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://www.uth.edu/
Baylor College of Medicine	テキサス・メディカルセンターに位置するBaylor College of Medicineは、教育、研究、患者ケアのいずれにも優れた実績を持つヘルスサイエンス系大学。幅広い医療分野で活動している。	医学、生物医学研究、遺伝学、ヘルスケア	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://www.bcm.edu/
Rice University BioScience Research Collaborative (BRC)	BRC（Bioscience Research Collaborative）は、ライス大学とテキサス・メディカルセンターの研究者・教育者が連携し、バイオサイエンスおよびヘルス分野の先端研究を進める共同研究施設である。	バイオサイエンス、バイオエンジニアリング、健康研究	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://brc.rice.edu/
Texas A&M Institute of Biosciences and Technology	この研究機関は、工学と医学の融合領域で研究を行い、人間の健康を改善する新しい技術や治療法の開発に取り組んでいる。	バイオテクノロジー、生体医工学、橋渡し研究	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://ibt.tamu.edu/

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

VII.　シカゴ Chicago (IL州、米国)

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

1 シカゴ概要

基本情報

- **都市の人口:** 266万4,000人
- **州:** イリノイ州
- **ヘルステック関連従業員数:** 2万6,000人 (2024年)
- **ヘルステック企業数:** 150社 (2024年)



米国におけるシカゴの位置

クラスター概要

- 2023年には、シカゴのメドテック分野で1億7,100万ドルのベンチャーキャピタル資金が調達された。
- 2022年7月から2023年8月にかけて、約6,000万ドルの海外直接投資が集まり、特に英国QualiTest社が3,400万ドル規模のメドテック研究開発施設をシカゴに設立した事例が注目される。
- 主な関連機関には、ファインバーグ医科大学とBaxter Healthcareが含まれており、分野の発展に寄与している。
- **業界平均年収：**11万3,000ドル



イリノイ州におけるシカゴの位置

出所：World Population Review, BioPharmGuy, Health Care Council of Chicago, Glassdoor

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

2 シカゴの特長、課題および最新動向

特長

- シカゴにはAbbVie、Baxter International、Horizon Therapeuticsなど、全米有数の製薬・バイオ医薬品企業が拠点を構えており、FDA基準を満たした製造施設を活用して創薬、臨床試験、大規模なバイオ医薬品生産が行われている。また、同地域は医薬品物流のハブとしても機能しており、サプライチェーンの強化や米国市場への参入を目指す日本の製薬・バイオ企業にとって戦略的な拠点となっている。
- ノースウェスタン大学医学部、シカゴ大学、ラッシュ大学医療センターなどの一流大学・病院では、ゲノム医療、精密医療、AIを活用した医療技術の研究が進められており、がん、神経疾患、希少疾病分野での革新的な治療法の開発を支えている。これらの機関は米国国立衛生研究所（NIH）および民間部門から多額の資金を獲得しており、日本のバイオ医薬品・メドテック企業にとっては、共同研究や初期段階の臨床試験に参画する機会が広がっている。
- さらに、シカゴはAI医療、ビッグデータ分析、予測診断においても先進的な地域であり、Tempus社やMATTERヘルステック・インキュベーター、シカゴ大学のデータ集約型科学センターが中心となって、AIを活用した診断支援、個別化医療、病院オートメーションの分野で革新を生み出している。医用画像AI、遠隔医療、病院業務の自動化に強みを持つ日本企業にとって、データドリブンな医療分野での連携の可能性が広がっている。
- また、シカゴのメドテック産業も活発であり、Abbott Laboratories、Hill-Rom、Medline Industriesなどの企業が、心血管用インプラント、血糖測定機器、AI搭載型ウェアラブル医療機器などの分野で事業を展開している。研究開発から製品化までの体制が整っているこれらの企業は、次世代の診断ツール、ロボット支援手術技術、遠隔患者モニタリング機器の開発に取り組む日本企業にとって、有望なパートナーとなり得る。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

3 シカゴの特長、課題および最新動向

課題

- **AIおよびデジタルヘルスソリューションに対する規制の複雑性：**米国の医療市場は規制が厳しく、FDAはAI診断、デジタルヘルスツール、メドテック機器に対して明確なガイドラインを設けている。AIを活用したヘルスケアソリューションを開発する日本企業は、HIPAAによる個人情報保護法や進化し続ける米国の規制に対応する必要がある。ただし、MATTERヘルステック・インキュベーターやシカゴの病院ネットワークとの連携によって、承認手続きの効率化や米国市場への迅速な参入が可能になる場合もある。
- **ヘルステック分野における専門人材の不足：**シカゴは医療人材の供給に強みを持つが、AIエンジニア、バイオテクノロジー研究者、高度なメドテック人材の需要が供給を上回っている。地域としてはSTEM教育や職業訓練プログラムに投資を進めているものの、市場に新規参入する企業は特定分野の人材確保に課題を抱える可能性がある。

最新動向

- **分散型臨床試験および在宅医療への移行：**シカゴの医療分野では、分散型臨床試験、遠隔医療、AIによる在宅医療ソリューションへのシフトが進んでいる。患者が自宅でのモニタリングや個別化された治療計画を求める傾向が強まる中、ウェアラブル医療機器、遠隔医療プラットフォーム、AIを活用した患者エンゲージメント技術を提供する日本企業には、米国市場での技術導入の好機が広がっている。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

4 日本企業の市場参入機会

- **製薬およびバイオ医薬品製造分野の拡大:**シカゴは、AbbVie、Baxter International、Horizon Therapeuticsなどの業界大手が拠点を構える、製薬研究開発および大規模バイオ医薬品製造の主要拠点である。高水準のバイオ製造インフラが整っており、バイオ医薬品、モノクローナル抗体、再生医療に特化した日本の製薬企業にとって、現地での製造施設や合弁事業を展開する上で魅力的な地域といえる。FDA認可を受けた受託製造機関（CMO）も多く、米国における生産および流通の効率化が可能である。

- **AI診断技術およびプレシジョン・メディシンにおける連携:**シカゴはAIを活用したヘルスケアソリューション、データ解析、プレシジョン・メディシンの分野で全米をリードしており、Northwestern Medicineやシカゴ大学のデータ集約科学センターでは、次世代の診断ツールや予測解析プラットフォームの開発が進められている。日本企業が持つAI支援画像診断、リアルタイム解析、デジタルヘルスの技術は、これらの現地機関との共同研究や技術統合の可能性を広げる。日本企業はシカゴの病院と協力することで、早期疾患発見、患者モニタリング、個別化治療の高度化を推進できる。

- **メドテックおよび先進医療機器への投資:**シカゴは、特にインプラント機器、手術用ロボティクス、ウェアラブル医療機器分野において、世界を代表する医療機器の革新拠点となっている。Abbott LaboratoriesやHill-Romといった企業は、次世代心血管デバイス、血糖モニタリング機器、低侵襲手術技術の分野で先端技術を開発している。小型センサー、ロボティック手術、AI診断に強みを持つ日本のメドテック企業は、現地企業との共同開発や米国市場への技術展開に向けた連携の機会を得られる。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

5 日本企業の市場参入機会

- **米国の病院・医療IT市場への参入機会:**シカゴには強固な病院ネットワークとデジタルヘルス・エコシステムがあり、スマート病院技術やAIによる業務自動化、患者データ管理システムなどの導入を検討する医療機関が多い。シカゴ拠点のMATTERヘルステック・インキュベーターは、デジタルヘルスのスタートアップ支援を行い、海外企業が米国の医療機関へ技術を導入するためのゲートウェイとして機能している。日本企業は、AI主導の病院オートメーションやIoT対応医療ソリューションを通じて、米国の医療現場における業務効率化と医療の質向上に貢献できる。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

6 ベンチャーキャピタル

業務形態	詳細	専門分野	日本企業との連携状況	ウェブサイト
ARCH Venture Partners	ARCH Venture Partnersはシカゴを拠点とするベンチャーキャピタルで、ライフサイエンス、物理科学、情報技術分野の革新的な技術を開発するバイオテクノロジー系スタートアップへのアーリーステージ投資に特化している。	バイオテクノロジー、ライフサイエンス、情報技術	2022年、ARCH Venture Partnersは日本市場を視野に入れた戦略的関心を示し、30億ドル規模のバイオメディカルファンドを立ち上げた	https://archventure.com/
OS Fund	2014年にBryan JohnsonとJeff Klunzingerによって設立されたOS Fundは、ゲノミクス、合成生物学、計算創薬、先端材料、診断技術などの分野で科学・技術系スタートアップに投資している。	ゲノミクス、合成生物学、計算創薬、先端材料、診断技術	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://osfund.co/
Sandbox Industries	Sandbox Industriesは、シカゴに拠点を置くベンチャーキャピタルで、大手企業と革新的スタートアップをつなぐ戦略的なコーポレート投資を行っている。Healthboxのようなアクセラレーターを立ち上げ、ヘルスケア関連企業にシード資金、メンタリング、各種リソースを提供している。	ヘルスケア系スタートアップ、医療技術、企業イノベーション	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://www.sandboxindustries.com/
Shore Capital Partners	Shore Capital Partnersは、成長産業の小規模企業（マイクロキャップ）を対象に、買収・拡大を目的とした投資を行うシカゴ拠点のプライベートエクイティ会社。ヘルスケア分野にも注力している。	ヘルスケア、マイクロキャップ投資、ビジネスサービス	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://shorecp.com/
GTCR	GTCRは、シカゴを拠点とするプライベートエクイティ会社で、レバレッジド・バイアウトや成長資金の提供を行っている。ヘルスケアを含む高成長産業への投資に重点を置き、複数の大規模ファンドを運用している。	ヘルスケア、金融サービス、情報サービス、成長型ビジネスサービス	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://www.gtcr.com/
The Vistria Group	Vistria Groupは、シカゴに拠点を置くプライベート投資会社で、ヘルスケア、教育、金融サービスなどの中堅企業に投資しており、経済的リターンだけでなく社会的インパクトの創出も重視している。	ヘルスケア、教育、金融サービス	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://www.vistria.com/

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

7 アクセラレータ・インキュベーター

業務形態	詳細	専門分野	日本企業との連携状況	ウェブサイト
MATTER	MATTERは、シカゴに本拠を置くグローバルなヘルスケア系スタートアップインキュベーター、コミュニティハブ、コーポレートイノベーションアクセラレーター。起業家、業界関係者、科学者、医師などのコミュニティを動員し、ヘルスケアの向上に取り組んでいる。	ヘルスケア系スタートアップ、ヘルステックにおける企業イノベーション、医療分野のコミュニティ形成	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://matter.health/
mHUB MedTech Accelerator	mHUB Acceleratorは、シカゴにあるハードテック向けの独立系イノベーションセンターで、6か月の実践型プログラムを提供している。参加企業には、14万2500ドルの資金と6万ドル相当のサービス・プログラムが提供され、プロトタイピング設備、専門メンター、メドテック企業・研究機関との連携機会も得られる。	医療技術系スタートアップ、ハードウェアと製造イノベーション、メドテックの製品開発	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://www.mhubchicago.com/medtech-accelerator-for-startups
Healthbox	Healthboxは2011年にスタートアップアクセラレーターとして設立され、シード資金、メンタリング、オフィススペース、アドバイザーを提供してきた。現在ではHealthbox Solutions、Healthbox Foundry、Healthbox Collaborative Innovation Fundsを展開し、ヘルスケアイノベーションを多方面から支援している。	ヘルスケア系スタートアップ、メドテック分野のイノベーション、ヘルステック分野での企業連携	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://www.healthbox.com/
Northwestern Medicine & Techstars Healthcare Accelerator	当プログラムは、ケアへのアクセス、AI、デジタル治療などの分野に投資することで、医療の変革を目指している。患者体験の向上、医師・看護師の業務効率化、精密医療、ロボティクス、サイバーセキュリティの分野で進展を図る企業を支援し、Northwestern Medicineの専門家や医師、業界リーダーによるメンタリングを提供している。	医療アクセス、AI医療応用、デジタル治療、精密医療、医療のサイバーセキュリティ	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://www.techstars.com/accelerators/northwestern-medicine-healthcare
1871	1871は、起業家、イノベーター、投資家、支援者が集まるグローバルな民間のイノベーションハブで、シカゴに拠点を置いている。ヘルステックを含むスタートアップ向けにプログラムやリソース、コミュニティを提供し、テックエコシステムの成長を支えている。	テクノロジースタートアップ、イノベーションエコシステム、ヘルステック支援	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://1871.com/

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

8 公的機関・研究機関

業務形態	詳細	専門分野	日本企業との連携状況	ウェブサイト
Illinois Medical District (IMD)	IMD（Illinois Medical District）は、560エーカーの特別用途地域で、医療研究施設、ラボ、バイオテクノロジーインキュベーター、4つの主要病院、40以上の医療関連施設が集積している。1日5万人以上が訪れ、34億ドルの経済効果を生んでいる。	医療研究、バイオテクノロジーのインキュベーション、ヘルスケアサービス	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://medicaldistrict.org/
University of Illinois Chicago (UIC) Health Sciences System	UIC（University of Illinois Chicago）は、イリノイ州の主要な公立医療センターを運営しており、同州における医師、歯科医、薬剤師、看護師、その他医療専門職の育成を担っている。複数の医療関連学部およびUI Health（医療・健康科学システム）を包含している。	医学教育、ヘルスケアサービス、生物医学研究	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://hospital.uillinois.edu/
Discovery Partners Institute (DPI)	DPI（Discovery Partners Institute）は、イリノイ大学システムのイニシアチブで、シカゴにおけるテクノロジー人材育成および実用研究の促進を目的としている。学術と産業の連携を通じて、州内テック企業の成長に貢献している。	テック人材育成、応用研究開発、公衆衛生イニシアチブ	日本企業との明確な関係は確認されていない	https://dpi.uillinois.edu/
Open Commons Consortium (OCC)	OCC（Open Commons Consortium）は、非営利団体としてクラウドコンピューティングやデータコモンズのリソースを提供し、科学・環境・医療・ヘルスケア分野の研究を支援している。 マルチペタバイト級の科学データ共有プラットフォームであるOpen Science Data Cloudなどを運営している。	クラウドコンピューティング、データ管理、生物医学データ分析	日本の産業技術総合研究所（AIST）と連携している	https://www.occ-data.org/

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.